

幽霊彼氏の
恋煩いの



成人指定



Adult Only



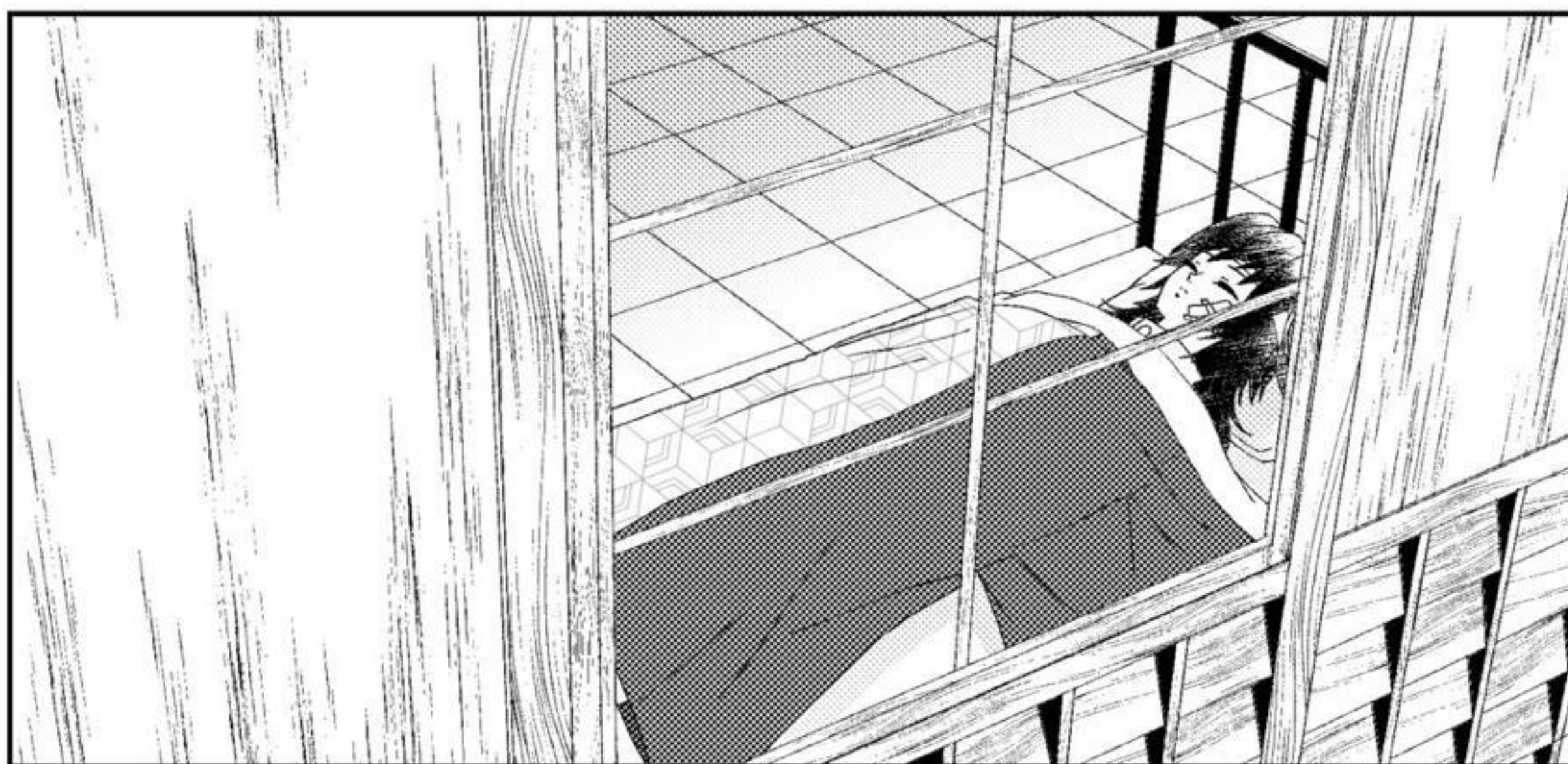
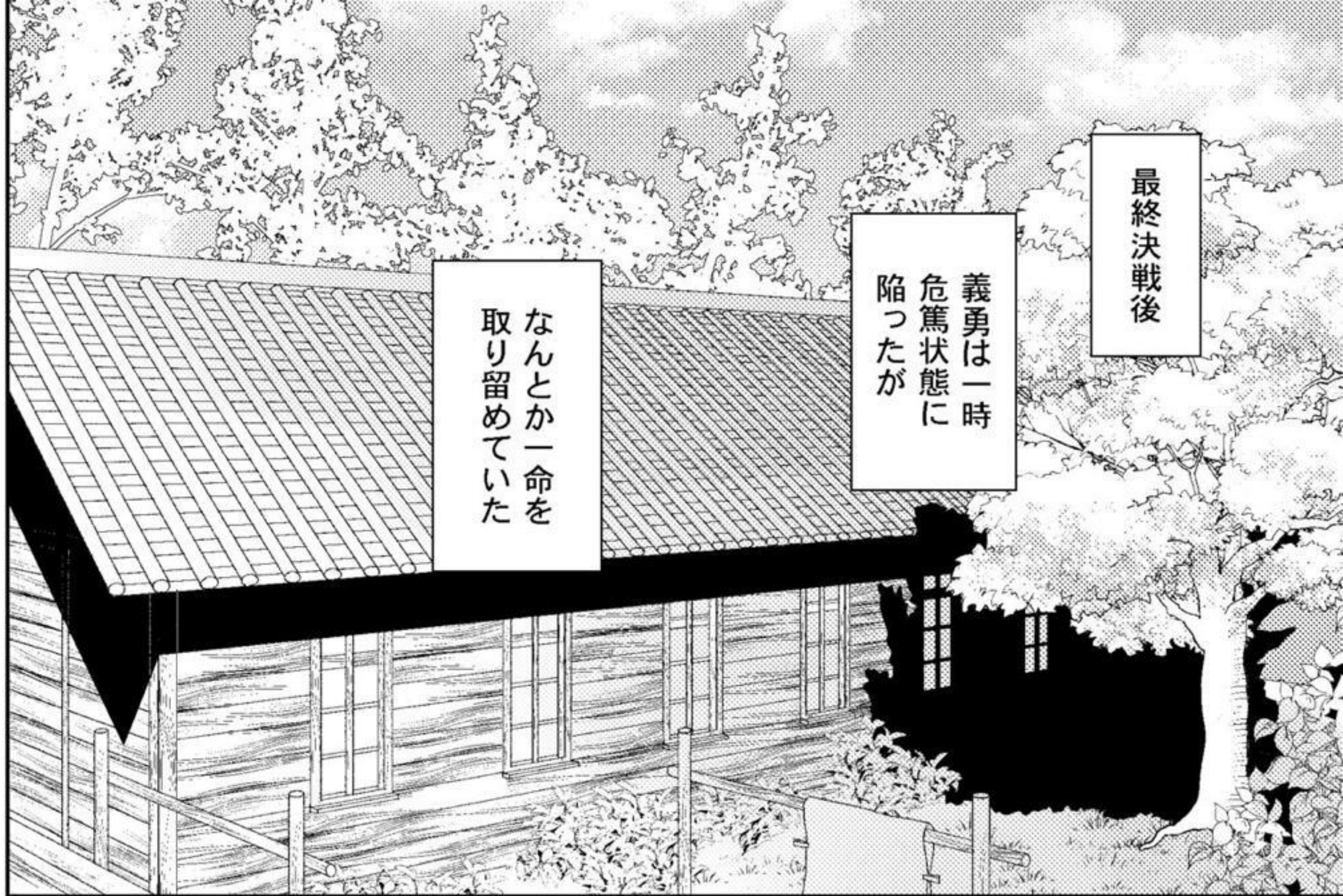
■注意書き

この本は個人的に作られた非公式ファンブックです。
原作者様・出版社様とは一切関係ありません。
ネットオークション、フリマアプリでの転売はご遠慮ください。
処分する際は同人誌専門の中古書店に売却するか、可燃ゴミ
として廃棄してください。
内容は無惨戦後の鎗義(成人向け)です。18歳未満の方の閲覧は
固くお断りいたします。

最終決戦後

義勇は一時
危篤状態に
陥ったが

なんとか一命を
取り留めていた





義勇!

気がついたのか!?



しかし
よく似ている

もし鑄兎が
生きていたら

きつと
こんな…



…鑄兎?

いや
そんなはずはない
鑄兎は死んだ



…ああ
そうか



俺を
迎えに来て
くれたのか

錆兎



上弦の鬼や
鬼舞辻無惨との
死闘で

俺は
立っているのが
やっとの
状態だった
戦いの後
事切れたとしても
おかしくはない



黄泉の国へ
旅立とうと
しているところ
悪いが



最期に迎えに
来てくれたのが
錆兎だとは

俺は果報者だ…



お前は
生きてるぞ
義勇

死んでいるのは
俺だけだ

まだ
動くな
重症
なんだぞ



俺はお前を
迎えに来た
死神ではない

お前に
取り憑いている
幽霊だ





そうだ

お前が鬼殺隊の
任務をこなすように
なってきた頃から
ずっと憑いていた



なんて？

俺に取り憑いた
幽霊？
錆兎が？



俺は今
声には出して
なかった
はずだが…

話さなくても
お前の心の声は
聞こえている

取り憑いてる
んだからな



だが
お前の声が
聞きたい

できれば
口に出してくれ
義勇



とはいえ
こんなのは
反則だ

忘れていた
錆兎への思いが
溢れ出してしまっ

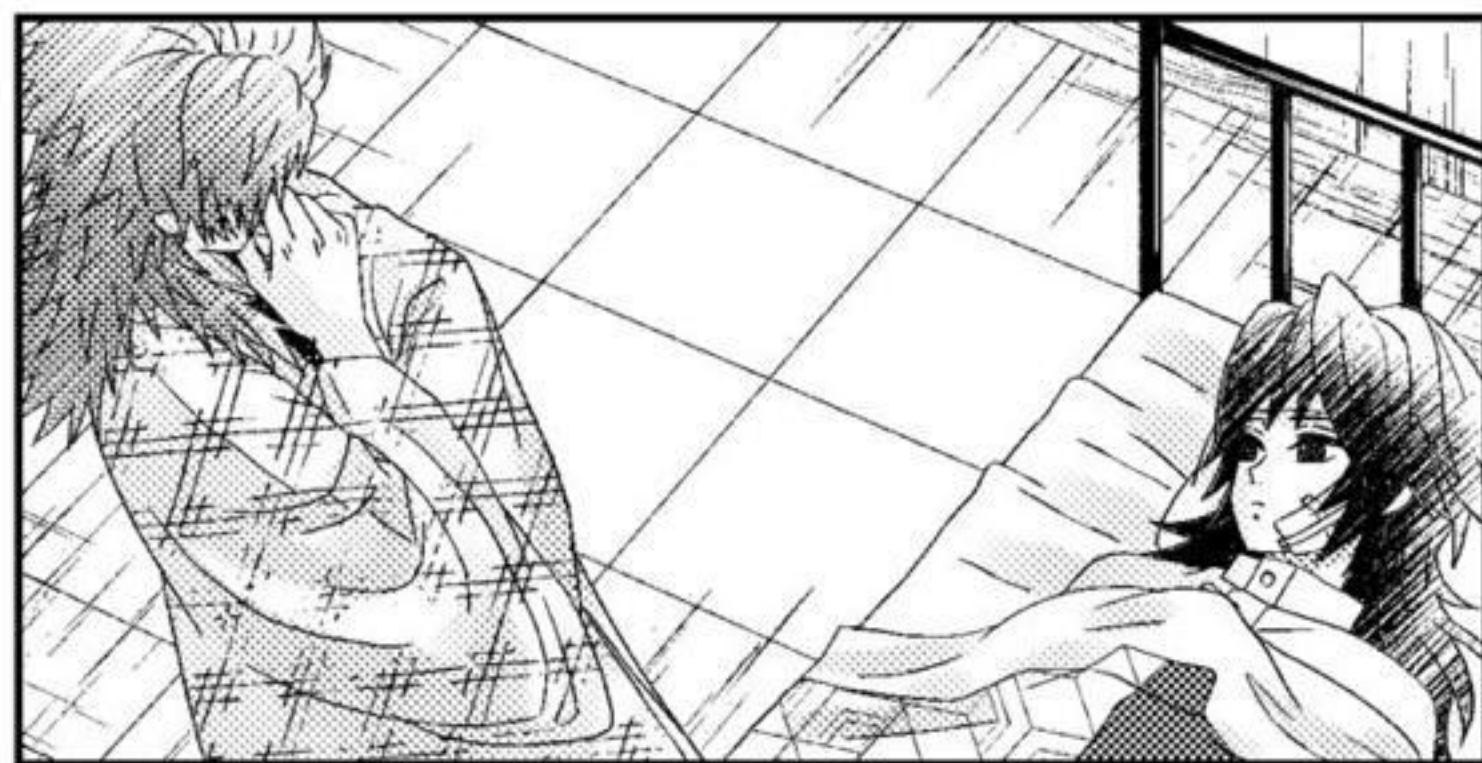
これでは
俺の心臓が
もたない



錆兎は
こんなことを言う
男だったのだろうか

いや錆兎は昔から
齒に衣着せぬ物言いを
する快活な男だった

俺はよく
知ってる





錆兎…



目が覚め
ましたか

びん



では

何かあれば
呼んでください



痛みは
ありますか

熱は？

食欲は？



.....

バタン...



それだけ
注意を払って
くれていたのだろう

怪我人の数も
少なくは
ないだろうに



間の悪い
女だな







半月後









これで
いいか

たぽっ



なぜ大人の姿で
現れたのか不思議に
思っていたが

自在に見た目を
変化できるなら
見たい

あごく
見たいぞ
錆兎

わかったから
落ち着け義勇

語彙が
死んでる



愛らしいな
錆兎

お菓子
食べるか

えわ
えわ

食わん!!

だから子供の姿は
嫌だったんだ!!



あわっ

あの頃の
錆兎が

それから
さらに数か月が
経過した頃

産屋敷輝利哉より
鬼殺隊の解散が
言い渡され

これを機に
俺たちは水柱邸に
戻ることにした

この屋敷に
帰ってくるのも
久々だな

おかえり
義勇

……ただいま

きゅん



錆兎が
馴染んで
いるのも

雨戸
開けるぞー

が
が
が

本当に
憑いて
たんだな



なんだか
変な感じだ

この家に
錆兎がいるのも



そんなことで
昇天するな

じいん

美味い…

もう
思い残す
ことはない…



おん

あの頃
以来だ…



食材を
煮込んだ
だけだが
どうだ？

ほか
ほか

錆兎の
手料理…!!



昇天と言え
成仏できない
霊には未練が
あると聞く

錆兎にも
未練が
あるのか



いつも歯切れの良い
錆兎が言い淀むのは
珍しい

余程
言いにくいこと
なのだろうか



.....



鬼への復讐が
未練だと
思っていた

うん

だが俺を殺した
手鬼が倒されても

鬼舞辻無惨が
消滅しても
俺は成仏しなかった



…ならば
あとは…

お前と一発
やりたかった

それが
未練だとか
考えられない





一発とは



お前に
伝えるつもりは
なかったが

俺は子どもの
頃からお前に
懸想していた



困った
ことにな

幽霊にも
性欲が
あるのか

だからお前に
取り憑いた後は
色々やった

だがあまりにも
お前が気付かない
のでやめた

靈感がないにも
程があるぞ
義勇

俺とて錆兎が
取り憑いてるのなら
気付きたかったよ

そんなことを
言われても困る

だが理由が
わかれば
対処も可能だ

それなら



これから
まぐわおう

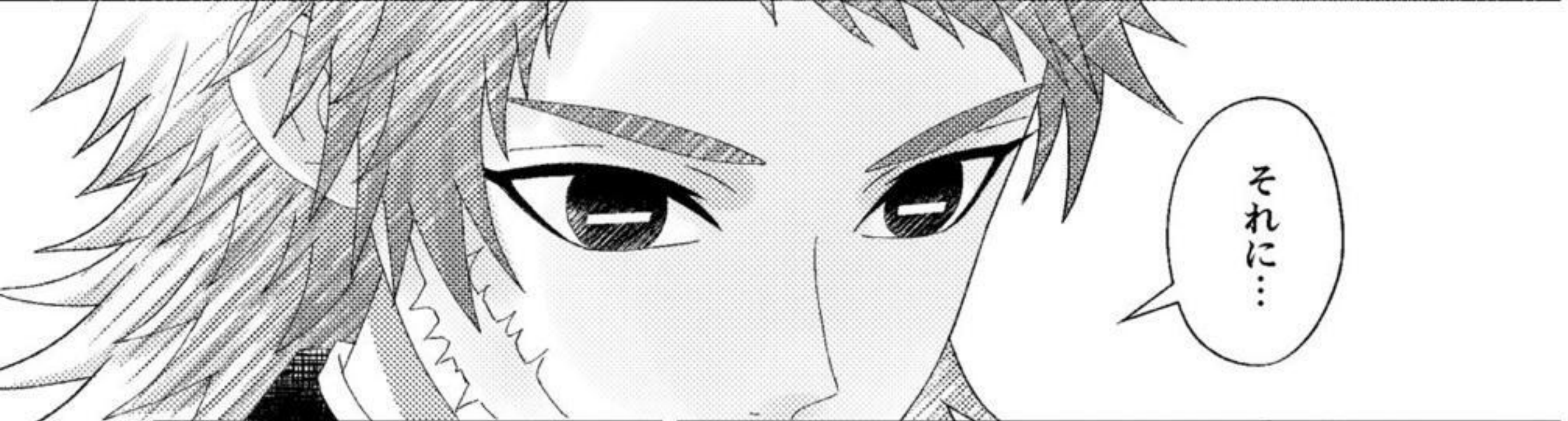
待て

そこは
もう少し考える

自分の体を
明け渡すことに
抵抗はないのか

脱ぐな!

ぬぎっ



それに…



はっ

一度まぐわえば
俺は成仏して
消えてしまう

お前の気持ちは
嬉しいが…





俺はもう少し
お前と一緒に
いたい



俺だって

錆兎といたい





錆兎との
何気ない生活を
どれほど
夢見たことか

決して叶わないと
わかっていても
諦められなかった
幸せを

今更
手放すことなど
できるはずがない



俺も…

錆兎と
離れたくない

もう少しだけ
そばにいてくれ…



うん…



ああ
共にいよう
義勇

ギョウ



グ
い
、



まだ買う
つもりか!?

鎗兎と一緒に
買い物へ
出かけたり

ギョウ



それから
しばらくは
夢のような
時間が続いた

ギョウ~~~~~





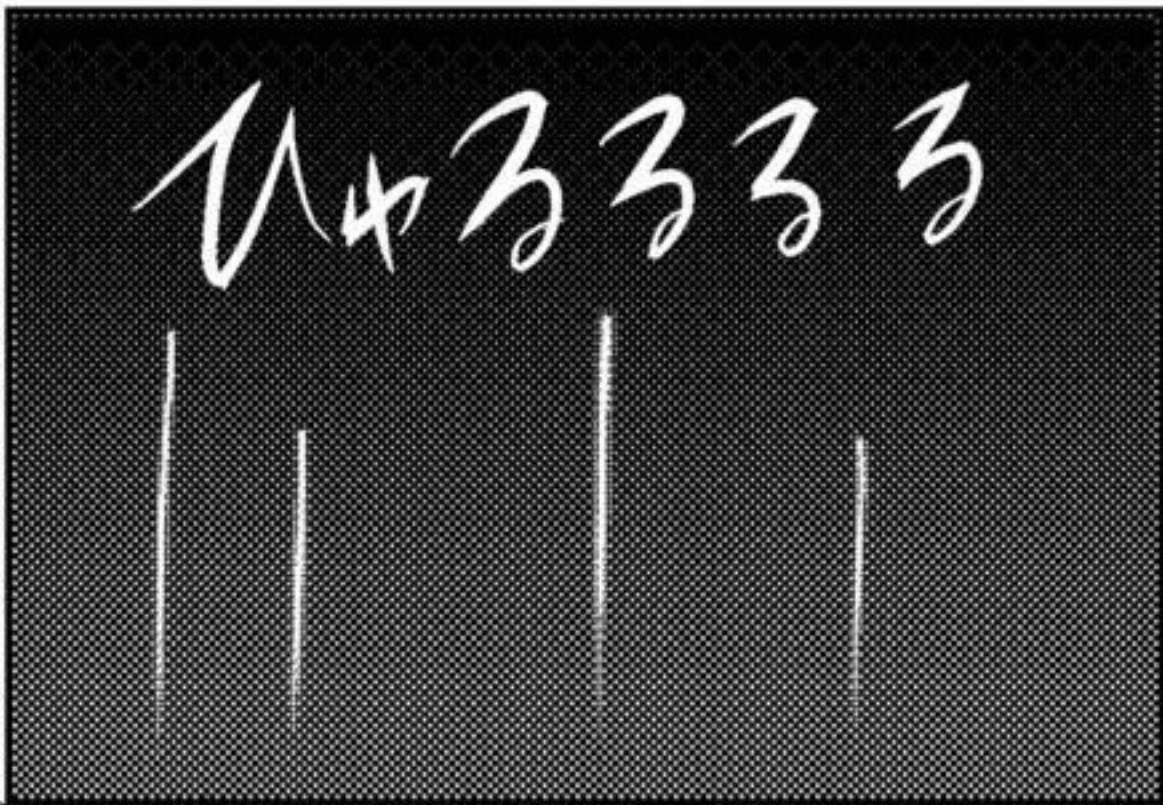
そろそろ
花火の
時間だぞ



次はかき氷
食べよう
錆兎



恋仲らしく
夏祭りも行った





え?
錆兎
聞こえない

なんて
言っただか?



お前が
綺麗だって
言っただよ

い、い、い



好きだよ
義勇

花火の威力は
凄まじいなどと
感心しながら

俺は錆兎との
かけがえのない
時間を過ごしていた



錆兎…



……っ

そんな
ある日

が
た
ッ



近頃
急に体力が
衰えてきた

以前のように
動けないことは
覚悟していたが

ここまでとは



体に力が
入らない…!



最終決戦後

なぜ急に鎧兜を
認識できるような
なったのか
ずっと考えていた




それまでも
ずっと俺に憑いて
いたというのに
全く感知できず

あの日突然
見えるように
なった

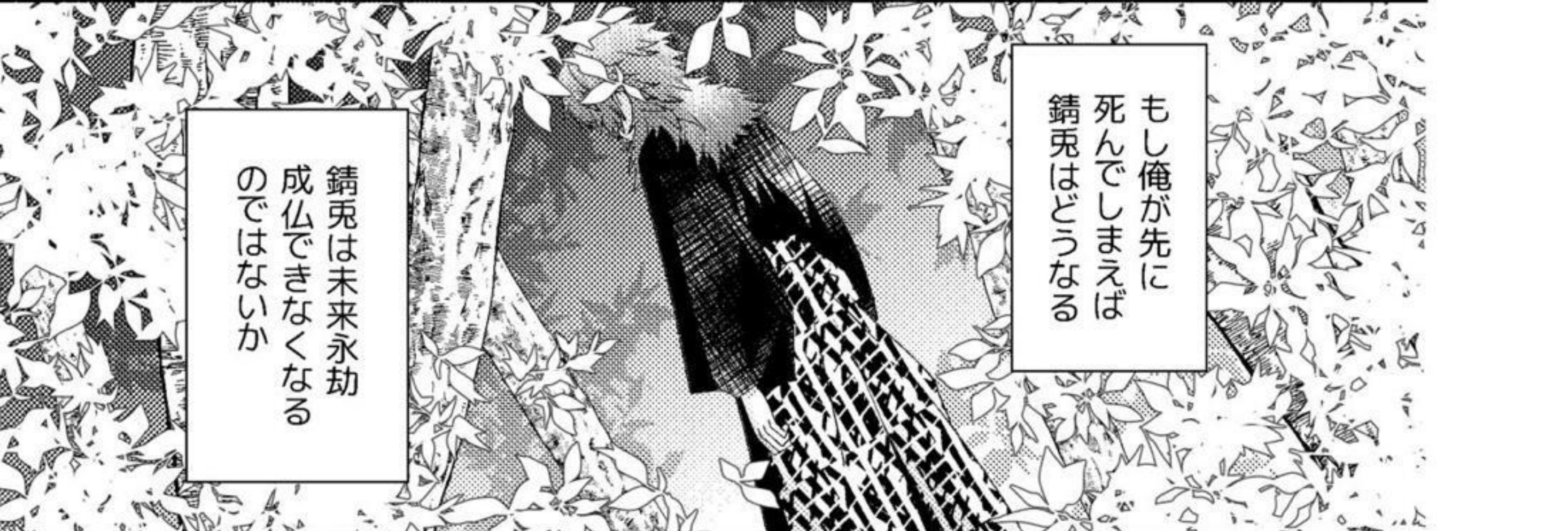
何か理由が
あるのだろうか
思っていたが

何の事はない




俺の死期が
近いからだ

俺自身が
彼岸に近づいたから
霊が視えるように
なったのだろう



もし俺が先に
死んでしまえば
錆兎はどうなる

錆兎は未来永劫
成仏できなくなる
のではないか



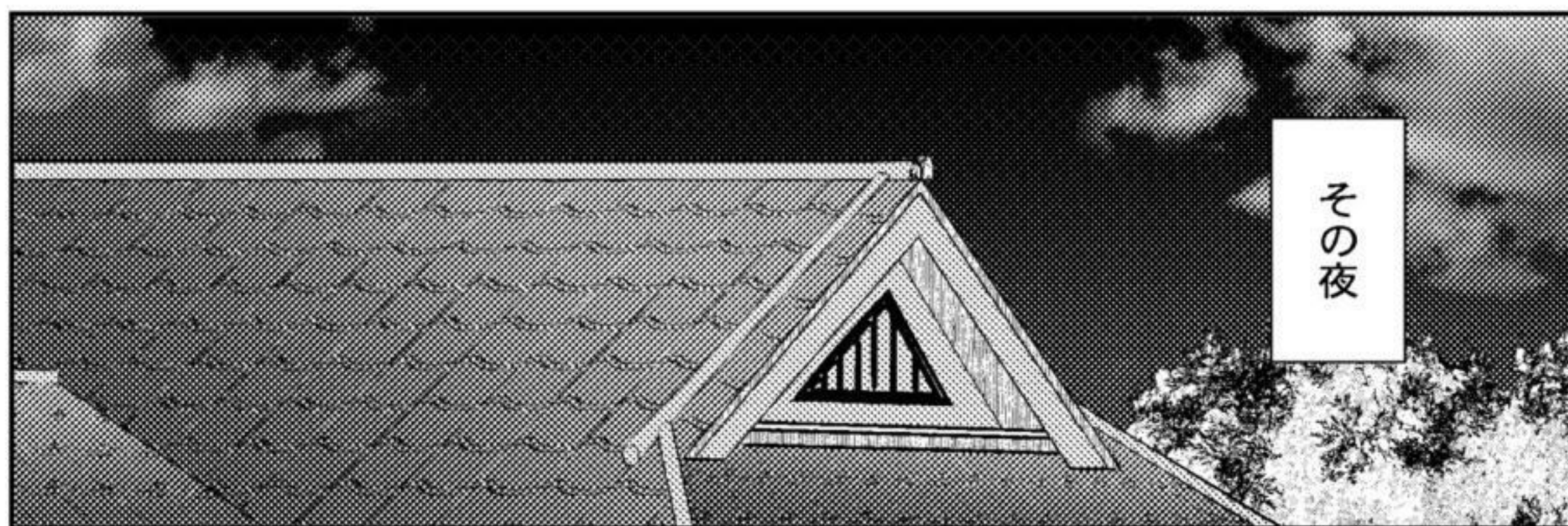
それは嫌だ



義勇
大丈夫か!?

俺は数えきれない
ほどの幸せを
錆兎から
与えてもらった

だから
錆兎にも
返そうと思う



その夜



そして
この夢の生活を
終わらせよう



靖兎

今夜俺を
抱いてくれ



体力が
落ちていいるなら
尚の事無理を
するべきではない

俺はたとえ
このまま成仏
できなくとも
構わない

お前といられる
今の方が大切だ

ぎゅっ



でも俺は
鑄兎を残して
逝きたくない

それに鑄兎が
成仏して
くれなければ

来世で
巡り合うことが
できなく
なってしまう

俺は鑄兎と
一緒にいたい

生まれ
変わっても

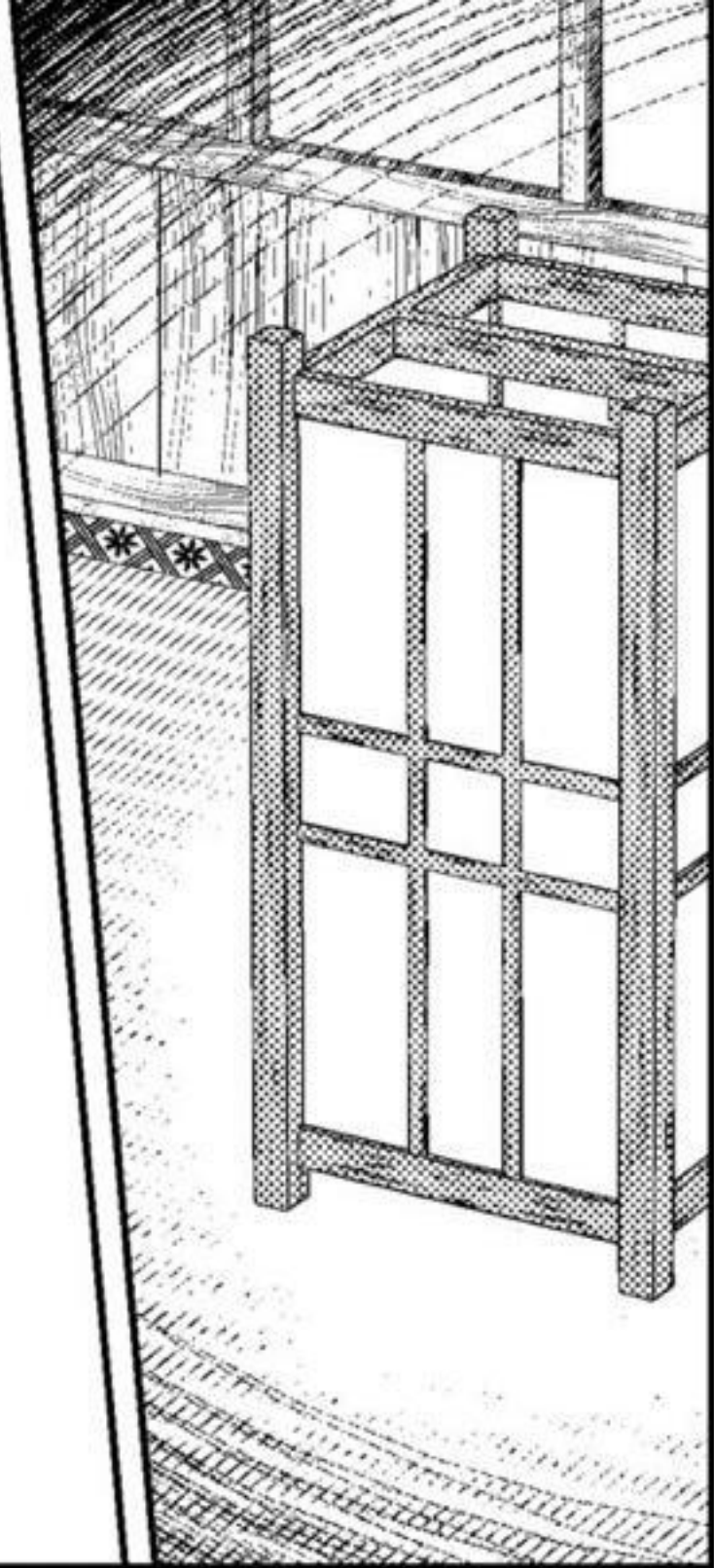
ずっと

…わかった



うん

準備をするから
そこでうつ伏せに
なってくれ



これで
いいのか

ほろっ



冷たくても
我慢しろよ

ああ
これから
軟膏を塗って
いくからな

ちろっ



え...?

なんだ
今のは...



ちゅびっ

びゅん

!!?



錆兎

なぜだ

尻に何かを
入れたことなど
ないはずなのに

なぜこんなに



感じるんだ…!?

……っ

びんびん



…色々したと
言っただろ



待っ…

なんで…

ん

じやあ
じやあ

…



…?

そっいえば錆兎が
俺に取り憑いた後

色々やったと
言っていたが

そのの
ことか…?

ん

ん

ん

ん



頻繁に
寝ているお前の
尻を弄っていた

何度か夢精
しただろ

あれは俺が
原因だ

は？

確かに何度か
夢精した
ことはある

だがあれは
成長期の男であれば
誰でも経験する
ものだ：

お前はまったく
気づかなかったのに

体は開発
されてたんだな

俺も驚いた



許せ

目の前に
好いた者の熟れた
肉体があれば

手を出さずには
いられないのが
男というものだ



そんな

勝手に…っ



ぐりゅん



それは

男ではなく
ケダモノと…

あぁあぁ

びん

びん



俺のおかげで
お前のここは

もう指を三本も
啜えて悦んで
いるんだぞ

痛いより
良かっただろう



そんな...

痛みなら
耐えられるが

こんな快感
どうすれば



入れるぞ





あ...

トーン

おはらいぞ

あ

!!







はい

待って

あら...

はい



あーあーあーあー

びく

あーあーあーあー



ズッ
ッ

ズッ
ッ



びく

あーあー

びく

全身を
貫かれたような
衝撃だ

こんなに
激しいものだと
思わなかった

あーあーあーあー



苦しくないと
言えば
嘘になるが

義勇…

じゅん

じゅん

鎗兔の肌が
心地よくて

あふあふ

あふあふ

あふあふ

あふあふ

鎗兔の魔羅を
腹に感じるのが
嬉しくて

俺の方が
先に死んで
しまおうと思った

あふあふ

あふあふ



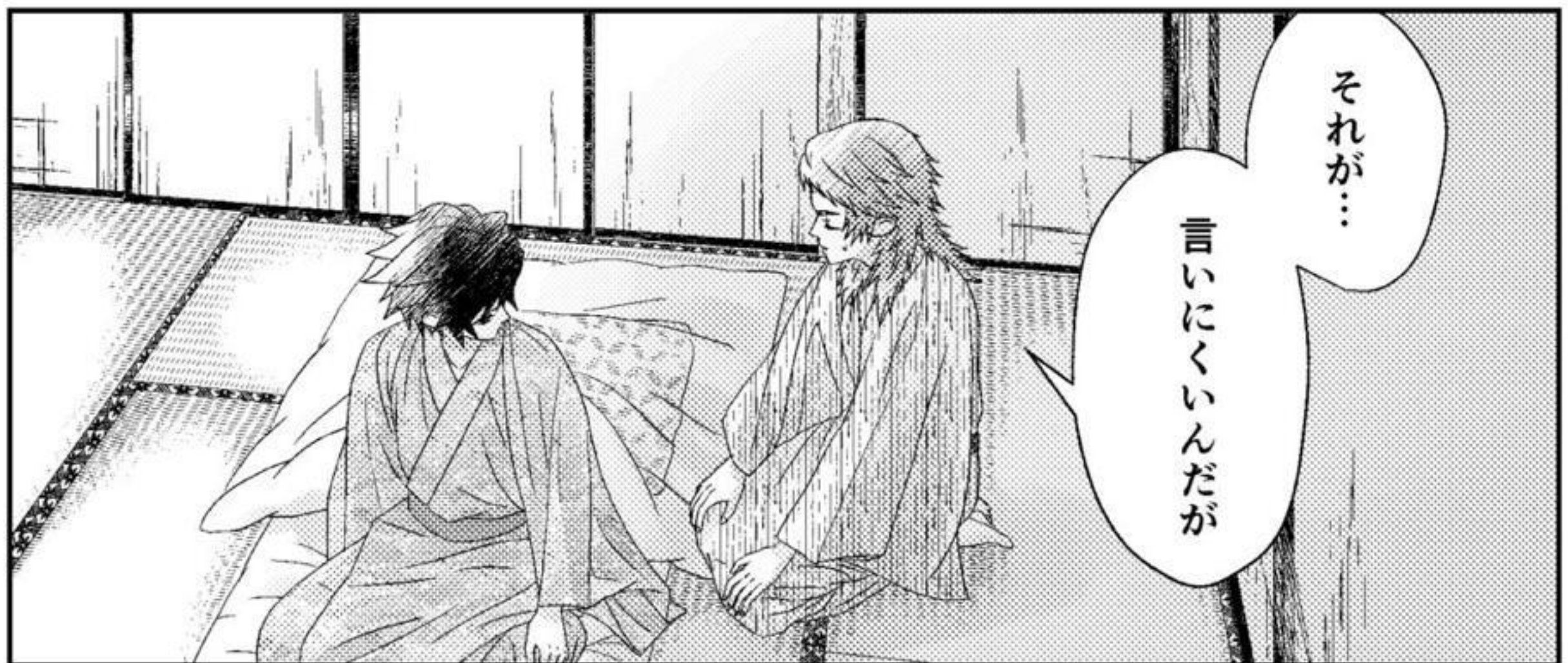


おはよう
義勇



成仏は...?

え?
靖兔...?



それが...

言いくいんだが



こうなったら
お前を腹上死
させる

共に天国へ
行こう！



昨日の交合が
あまりにも
気持ちよくて

新たな未練が
できてしまった



まだ鎧兎と
いられる

死ぬときも
死んだ後も
一緒に
いられるなら

そんなとんでもない
死因でもやぶさかだ
ないと思う

終わり

■後書き

この度は拙作をお読みいただきましてありがとうございました。

狭霧山の錆兎くんが炭治郎と力いっぱい鍛錬できるのなら、霊体のままでも義勇さんとイチャイチャできるのでは？と妄想してみました(狭霧山でしかさびまこは姿を現せられないと思いますが)

ただ、己に敵しい大正錆兎くんが、寝てる義勇さんに手を出すだろうか？とか、義勇さんは錆兎くんにケダモノなんて言わないよね…？ということにペン入れ終わったくらいに気付いたんですけど、もう直せませんでした…。

鋼の精神で色々耐えられる錆兎くんも、どんどん綺麗になっていく義勇さんを前に手を出さずにはいらねなかったということにしていただけければ助かります！カッコつけたいのに失敗する年相応の錆兎くんも大好きです。

今回、内容のわりにそこはかとなく暗い雰囲気になってしまったので、次こそは楽しいお話にしたいです！ではまたどこかで～！

■奥付

本のタイトル：幽霊彼氏の恋煩い

発行者：ブリ

発行元：ブリスタ

発行年月日：2022年7月24日

(さびぎゅ合わせ)

連絡先：buririn2022+o@gmail.com

TwitterID：kburijp


pixivID：109121

印刷所：(株)ホープツーワン

表紙用紙：サーブル/箔押し：パール

幽霊錆兎が見えるようになる前の話





靖兔×富岡義勇
鬼滅の刃 非公式ファンブック